

普及活動情勢報告（令和3年3月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

農福連携の進展に向けて！

・・・相談支援事業所連絡会・・・



2月15日、幡多地域の相談支援事業所の連絡会が開催され、農業改良普及課は、大方南部事業所のニラ出荷調製での就労について、これまでの経過や福祉事業所の就労状況、課題などを報告しました。

相談支援事業所からは、「出荷場だけではなく事業所内での就労はできないか」、「事業所だけでなく個人で働きたい人にも対応できないか」などの意見が出されました。これらの課題に対応するため、幡多地域農福連携協議会の設置を計画中であることを伝えたところ、相談支援事業所からは農福連携協議会への参加の了解が得られました。

ハウス内の環境測定データを活用しよう！ ・・・環境制御技術アドバイザー指導・・・



2月16日、四万十市のキュウリほ場で、（株）デルフィーージャパンの麻生氏によるリモート指導が行われ、生産者及び関係機関10名が参加しました。

午前中は、タブレットで写したほ場の画像を見ながら生育状態を確認した後、ハウス内の環境測定データをもとに、天窓や加温機等の機器類の設定についてアドバイスを受け、午後はかん水方法についての講義が行われました。生産者からは、「朝1回目のかん水時間の判断や日の出後の天窓の使い方について参考になった」という意見が聞かれました。

農業改良普及課では、環境データの解析方法を学ぶとともに、JAと連携し、環境制御技術による増収に向けた支援をしていきます。

GAPに取り組んでいます！

・・・農業組織でのGAP取組確認・・・



2月19日、四万十市の環境保全型農業直接支払交付金申請組織の4名に対し、GAP実施内容の確認を行いました。

農業改良普及課はこれまで、それぞれの作業場の課題や改善点について指導を行い、組織員とともに取り組む内容を検討してきました。今回、作業場の不要な資材を処分したり、予冷庫内に温度計を設置したり、緊急時の連絡先リストの作成状況を確認しました。組織員からは、「片付くことで作業がしやすい」、「気付いた時に掃除するようにしている」などの前向きな意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も継続して取組を支援していきます。

基盤整備後の農地を守るために！

・・・（農）三里営農組合設立総会・・・



2月21日、四万十市の三里集会所で、「農事組合法人三里営農組合」の設立総会が開催され、農業者及び関係機関16名が出席しました。

三里集落では、令和3年1月に基盤整備が完了し、基盤整備後の農地を法人に集積し農地を守っていく計画を立てています。組合員は12名で、令和3年度は4haの協業経営を計画しており、今後は野菜の導入など徐々に活動を拡大していく予定です。

農業改良普及課は、法人の経営安定に向けて栽培指導や経営管理の支援を行っていきます。

作業の効率化を目指して！

・・・JA高知県大方支所園芸部キュウリ部会・・・



2月24日、黒潮町の農業構造改善センターで、キュウリの新規就農者や研修生6名を対象に、摘葉作業の効率化について勉強会を行いました。

農業改良普及課は、作業を撮影した動画を用いて、摘葉作業の早い人と遅い人の比較を行いました。初めは、生産者もどこが違うのか分からず、見るポイントを伝え繰り返し観察してもらおうと、参加者から「目線がブレていない」、「作業体勢が一定で疲れにくい」等の意見が出され、その少しの違いで一年を通しての作業時間が何時間も変わってくることを理解してもらいました。

今後の巡回時にも、作業効率を意識するよう働きかけます。

ハウスオクラの出荷が始まります！

・・・後作オクラ現地検討会・・・



3月3日、黒潮町のオクラ2ほ場で生産者14名を対象に現地検討会を開催し、今後の管理について指導を行いました。

農業改良普及課は、前作にあたる抑制作型のキュウリと後作オクラそれぞれの炭酸ガス施用実証の結果を報告しました。抑制キュウリは2年続けて過去最高収量を記録し、オクラの成績も向上しているため、参加者は真剣に説明を聞いていました。また、オクラの出荷を控えており、例年通りの単価で販売を始める予定とのJAの説明に、生産者は一安心していました。

今後は、抑制キュウリ＋後作オクラという黒潮町の独特な営農体系において、IoTクラウドの利便性を実証し、環境制御技術及びIoTクラウドの利用農家を増やしていきます。